

生成AI/LLM活用・導入 アドバイザーサービスのご紹介

ブームに踊らず、過度に恐れず、
貴社の業務やビジネスの改善・改革を狙った取り組みの企画・検討を！

LLM(Large Language Models)などの生成AIは、業務やビジネスに大きな便益をもたらす可能性がある一方、不正確な回答に基づく判断ミスなどのリスクもあります。

ビジネスへのベネフィット(例)

- 間接部門の人員の30%が5年以内にAIや自動化による代替が見込まれるため、新規採用見送り(バックオフィス業務、米国)
- チャットボットによる対応が主流になり、音声通話の2~3割が自動化、人のオペレーターの需要が低下(コールセンター、仏国)
- 生成AI/LLMの普及で教育プログラムへの学生の申し込みが減少(教育産業、米国)
- 他に調査、翻訳、テキスト入力・チェック等の業務への活用・導入が期待される。



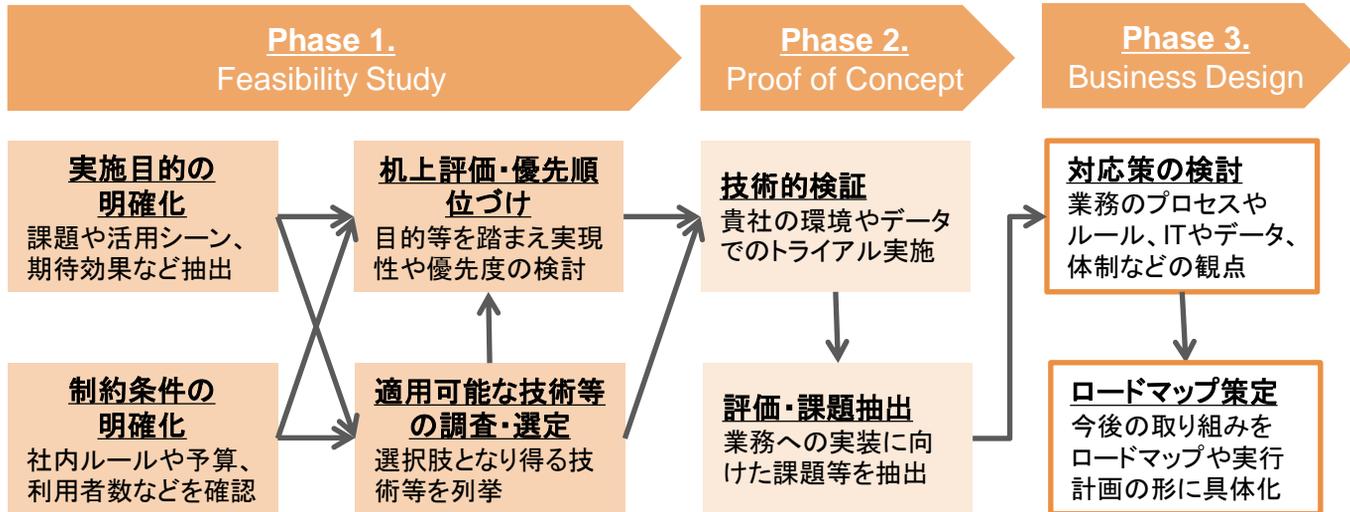
生成AI活用の課題(例)

- 曖昧なプロンプト(指示文)だと得られる情報が限定的
- 得られる回答がしっくりこない、社会的に不適切な回答となることも
- 使えそうな気はするが、どの業務から活用すべきか、何から着手すべきかわからない
- 社内データを活用して、より目的に合致した使い方をしたい。そのために必要なデータの整備・体系化から必要 など

貴社の状況に応じて、地に足をつけた取り組みに具体化していくことが不可欠です。

- 想定される課題や活用シーンで期待される効果やアウトプットの明確化から着手し、前提とする社内ルールや予算、利用可能な技術を踏まえて、取り組みの優先順位をつけていきます。
- 必要に応じて貴社環境で検証し、評価することで、実装に向けた課題を抽出、貴社の業務やビジネスの改善・改革の実現に向けたロードマップや実行計画の策定をご支援いたします。

生成AI活用・導入アドバイザーサービスの進め方(例)



Phase 1. Feasibility Study

■ 実施目的の明確化

- 業務・ビジネス上の課題や活用シーンの抽出
- 期待する効果やアウトプットの具体化

■ 制約条件の明確化

- 社内ルール(情報セキュリティなど)の確認
- 想定する運用予算、利用者数などの認識合わせ

■ 適用可能な技術等の調査・選定

- 上記を踏まえて選択肢となる技術やツールを、Open AIのGPTsからRAG・Difyまで調査・抽出
- ⇒ 当社はIT部門を抱えず、特定のITソリューションも有しません。

特定のソリューション等に誘導せず、公平な立場から、貴社の課題に最適な技術をご提案いたします。

■ 机上評価・優先順位づけ



より社内外の「ユーザー視点」を取り込んだ設計をする際はDXを実現するためのサービスデザインを、生成AIやLLMに限らずDXにおけるデータ利活用を含めて広く検討する際はDX実現に不可欠なデータ利活用その企画・検討を支援するサービスをご提案いたします。

Phase 2. Proof of Concept

■ 技術的検証

- 実施目的や制約条件による優先順位づけに加えて、直近で使える予算・期間なども踏まえて試行可能なユースケースを選定、貴社のIT環境やローカルデータを活用して、本格導入が可能かを検証
- 貴社の状況に応じて、検証の詳細計画を立案・実行します。
体制は当社要員やパートナー、貴社要員などを含めて検討します。

■ 評価・課題抽出

- 技術的検証における目的・目標の達成度合いを評価
- 業務やビジネスへの実装に向けた課題を抽出

(社内ルール・業務プロセス、ITシステム、データ整備・体系化、費用対効果など)



データ利活用に重点を置いた業務改善・改革については、データ利活用による業務改善・改革を支援するコンサルティングサービスをご参照ください。

Phase 3. Business Design

■ 対応策の検討:

- 得られた課題への対応策を抽出
- 利用ルールや業務プロセス、システム整備、社内データ整備・体系化(データ設計・開発、ロジック構築、データワーク導入など)、社内外の体制整備、高度人材の育成など

■ 今後の取り組みをロードマップやアクションプランとして具体化



生成AIに限らずDX実現への第一歩を踏み出した企業を支援する伴走型アプローチもご提案いたします。

ご相談から企画提案のご依頼までお気軽にお問い合わせください

お問い合わせはこちら

※上記ボタンをクリックすると、当社問い合わせフォームに遷移します
※紙でご覧の方はQRコードをお使いください

